

14期 ミュージアムへ行こう5

第5回テーマ 奈良監獄ミュージアム

事前学習：

- 《1》 講座日時：2026(R08)年 09 月 24 日(木) 10 時-12 時
- 《2》 講座場所：豊中市くらし館 3 階
- 《3》 講師：武庫川女子大学 教授 石田潤一郎先生
- 《4》 概要：来週の奈良監獄ミュージアム鑑賞に先立ち、事前学習が行われた。

講義の前半は、西洋も含めた監獄の変遷（コンセプトの変化とそれにともなう建築構造の変化）を中心にお話があり、講義の後半は奈良監獄ミュージアムの写真を多数見せていただいた。

大半の人には縁のなかった監獄についての歴史的変遷など目新しい内容で大変参考になりました。

来週(10月01日)の鑑賞会がとても楽しみです。



《5》 講座の内容

① 欧米の監獄建築

18 世紀後半から行刑施設の改善が始まる。

これまでの**応報**（劣悪な監獄環境で罪を償なわせる）から独居房を増加させるなど**矯正**へ。

- ・一番革新的だったのが、19 世紀に米国のハヴィランドが設計したイースタン懲治監である、

- ・ハヴィランドシステムと呼ばれ、中央監視所を中心に収容棟（舎房）を放射状（星型・車輪のスポーク状）に配置する監獄建築様式。（少人数での監視が可能）

- ・米国はそれまで建築においては後進国であったが、ヨーロッパにも影響を与えた最初の米国建築。

- ・これに影響を受けたイギリスの刑務所を岩倉使節団も見学している。



イースタン懲治監の平面図

② 日本における監獄建築の近代化と奈良監獄

- ・徳川幕府が結んだ不平等条約を解消するためにも、監獄を近代化することで日本は欧米並みの文明国であることを示す必要があった。

- ・量刑は国が決定するが、監獄の運営は府県が行っており、府県の財政状況で監獄のレベルはまちまちであったが、明治 34 年から国の予算が付き始めた。

- ・明治 41 年に監獄法が制定され、当初から奈良監獄は少年囚も収容していたが、少年囚の分離拘束を規定し、戦後、奈良監獄は少年囚の一つとなった。

- ・奈良監獄の設計者は、**山下啓次郎**（五大監獄の 3 つは直接設計、2 つは若手に設計させる）。

③ 旧奈良監獄の構成と意匠

- ・国際水準を目指した明治期の五大監獄の一つが当初の状態をよく伝えることの意義は大。

- ・特に床・天井まで煉瓦構造で作り上げた技術。（巣鴨監獄は壁のみが煉瓦構造）

④ その他

- ・以前、石田先生が、奈良監獄の責任者にここに収監されている少年の原因は、遺伝的な要素か家庭環境か、と尋ねると、責任者は「家庭環境」と即答した。
- ・奈良監獄で再教育など先進的な施策を実施し、再犯率の低さを誇った・

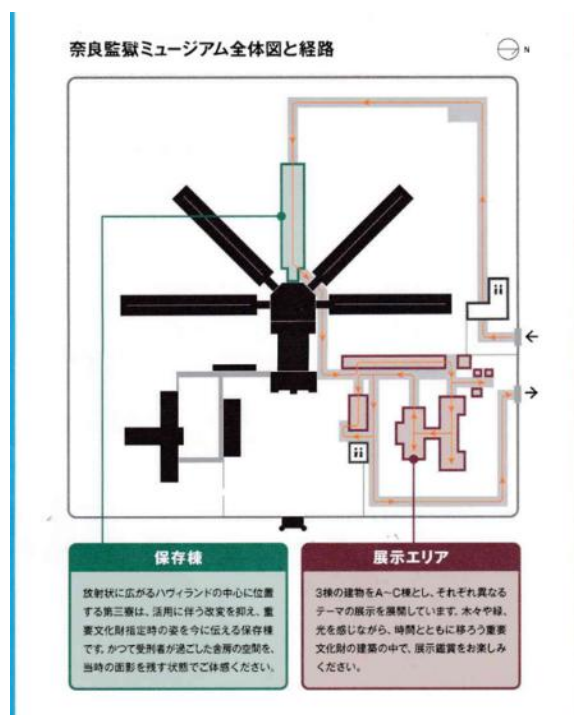
実際の鑑賞：

《6》 見学日時：2026(R08)年 10 月 01 日(木)

- ① 10 時 20 分にミュージアム正門に集合して、午前中構内を探訪した。
- ② 晴れで探訪には適していたが、やや暑かった。構内は大変広い敷地である。

《7》 奈良監獄ミュージアム

①



ミュージアムは「保存棟」と「展示エリア」で、黒い部分はホテルになっており立ち入れない。

もともと脱走しにくくしている構造の建物を、火災の際など、逃げやすくしなければならぬホテルへの改造はむずかしかったようです。

② ミュージアムの入口



出口付近で集合

入口

② 保存棟

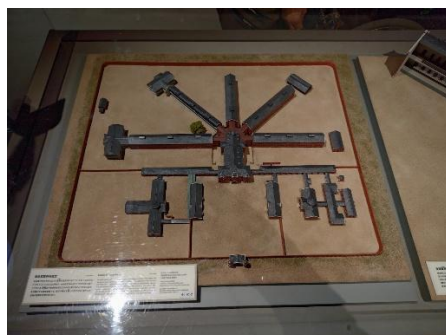


1 階（廊下の左右に監獄を配置）



2 階

③ 展示棟

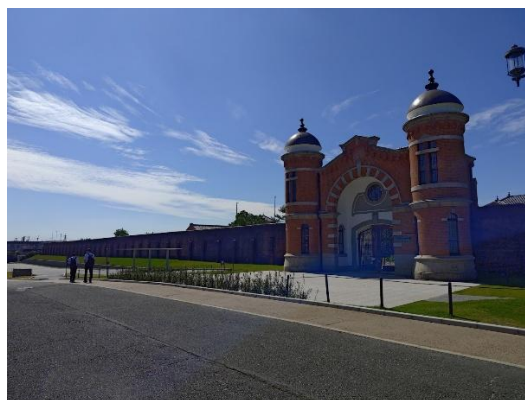


模型



設計者・山下啓次郎の紹介

④ 構内の風景および監獄の正門



《保存棟》

- ・ハヴィランドシステムがよく理解できました。
- ・いくつかの独房(3 畳)には入ることが出来るようになっています。
- ・ホテルは 3 畳の独房の壁を貫いて、横長の部屋となっている。(見ていません)

《展示エリア》

- ・元刑務官の証言がビデオでながされていた。

着任した刑務官は、面会者が来たさい少年囚を面会場所まで案内する役を担う。

ある時、普段は吃音が強く、うまく言葉のでない少年囚に両親が来たことをつげると、すぐに「ありがとうございます」と返答した。

肉親に面会できることが少年囚に強い喜びであることを感じた。

●●● 思い起こせば、2021 年 10 月 20 日に oncc9 期の再発見で奈良監獄を訪問している。通常の奈良観光は近鉄奈良から東に進んで東大寺に向かうか、南の興福寺・春日大社に足を運びがちである。この時は、北エリアの「奈良女子大、聖武天皇陵、多聞城跡、旧奈良少年刑務所など」を探訪した。旧少年刑務所は正門から見学しただけであったが、近々ホテル開業を予定しているとの説明であった。なおこの時の 2 名の男性 CAさんは探訪の度に午後にもオプションで案内を入れてくださり、この日は「ならまち」の探訪を行った。旧刑務所を再訪して構内を見学でき、うれしく思いました。

最後に、近鉄奈良からミュージアムまではバスが 2 系統あり、少しややこしいが、2 名の女性 CAさんの入念な事前調査でスムーズに着くことができました。いつも笑顔でお世話いただき、ありがとうございます。

(ブログ担当：1 班岩井)